

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|------|----------------------------------|-----|------|
| 報告番号 | 甲 保 第 43 号 乙 保 | 氏 名 | 石原留美 |
| 審査委員 | 主 査 森 健治 副 査 葉久真理 副 査 岩佐 武 | | |

題 目

Transition of Depressive Symptoms and Anxiety Symptoms According to Parity and Associations of These Symptoms with Feelings for Involvement with Newborn Infants during a 6-Month Postpartum Period

(産後6か月間におけるうつ・不安症状の経過と新生児と関わる時の感情との関連)

著 者

Rumi Ishihara, Keiko Nagamine, Yoshie Nishikawa, Mari Haku, Hirokazu Uemura, Yukie Matsuura, Toshiyuki Yasui. 2020年9月発行 Open Journal of Obstetrics and Gynecology Vol.10, pp1315-1330 に発表済

要 旨

本研究は、産後6か月間におけるうつ及び不安症状の経過、及びうつや不安症状と出生した児と関わる時の感情との関連について、初産婦・経産婦別に明らかにすることを目的とした前向き研究である。Greene's climacteric scale, Edinburgh postnatal depression scale, 乳幼児に対する関わり意識を用いた質問表によって評価を行い、産後3日目、産後1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月の全てに回答が得られた121名（初産婦56名、経産婦65名）を対象に解析を行なっている。本研究により、産後早期から産後6か月間におけるうつや不安症状の変化が明らかとなり、うつや不安症状の再燃の時期については初産婦と経産婦とで異なること、初産婦のうつ症状の再燃には睡眠時間が少ないことが関係することが示された。さらに、うつや不安症状は新生児との関わりに対する否定的な感情と関連することも明らかにされた。これらの結果から、産褥期女性への対応として初産婦と経産婦に分けてうつや不安症状の要因や支援を考える必要性が示唆された。本研究で得られた研究成果は、現在、社会問題となっている褥婦のうつや不安症状に対する精神的な支援を考える上において重要な知見であり、本研究の社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判断した。